

住民説明会（説明資料）

平成31年2月13日
防衛省
沖縄防衛局

余白

御説明内容

1. 我が国を取り巻く安全保障環境
2. 石垣島への部隊配置について
3. 陸上自衛隊の警備部隊、地对艦誘導弾部隊、
中距離地对空誘導弾部隊とは
4. 地域への貢献等
5. 今後の建設工事について

1. 我が国を取り巻く安全保障環境

我が国を取り巻く安全保障環境

様々な安全保障上の課題や不安定要因が、より顕在化・先鋭化し我が国を取り巻く安全保障環境は、一層厳しさを増しています。

一層厳しさを増す我が国周辺の安全保障環境

最近のわが国周辺の安全保障関連事象



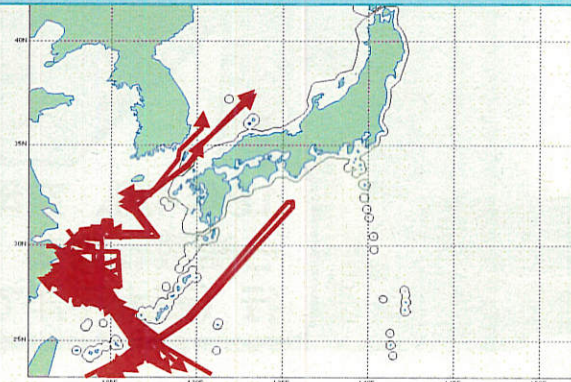
- ✓ 北朝鮮によるその核・ミサイル開発及び運用能力向上は、我が国を含む地域及び国際社会に対するこれまでにない重大かつ差し迫った脅威です。



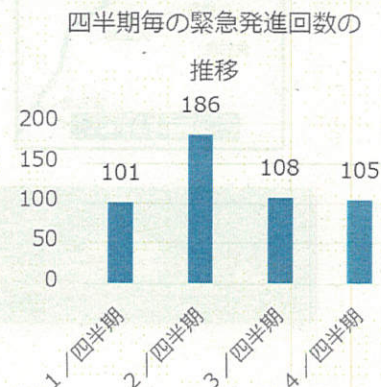
北朝鮮による「人工衛星」と称する弾道ミサイル発射

- ✓ 中国は、不透明な形で軍事力を強化し、東シナ海や南シナ海を始めとする海空域等における活動を急速に拡大・活発化しています。我が国はこのような動向を強く懸念しています。

緊急発進した中国機の飛行パターン(29年度)



緊急発進回数の推移(29年度)



中国の軍事活動

- 中国軍は海洋における活動を**質・量ともに急速に拡大・活発化**
- 尖閣諸島周辺**のほか、**日本海**及び**西太平洋**における活動の定例化を企図しているとみられ、**海空戦力による活動を一方的にエスカレート**

艦艇が尖閣諸島周辺海域で恒常的に活動

日本海への軍用機進出の活発化

用例

航空機 →
空母 →

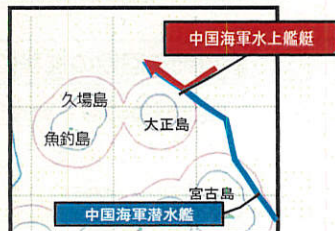
尖閣諸島領海への侵入を繰り返す公船が所属する**海警部隊**は、18年7月、**中央軍事委員会の一元的指揮を受ける武装警察に編入**

18年1月、潜水艦（潜没航行）とフリゲートが尖閣諸島の接続水域内航行

シャン級潜水艦



ジャンカイⅡ級フリゲート



空母「遼寧」



18年4月、空母「遼寧」から艦載戦闘機（推定）が飛行（西太平洋では初確認）

Su-30戦闘機



海警の公船



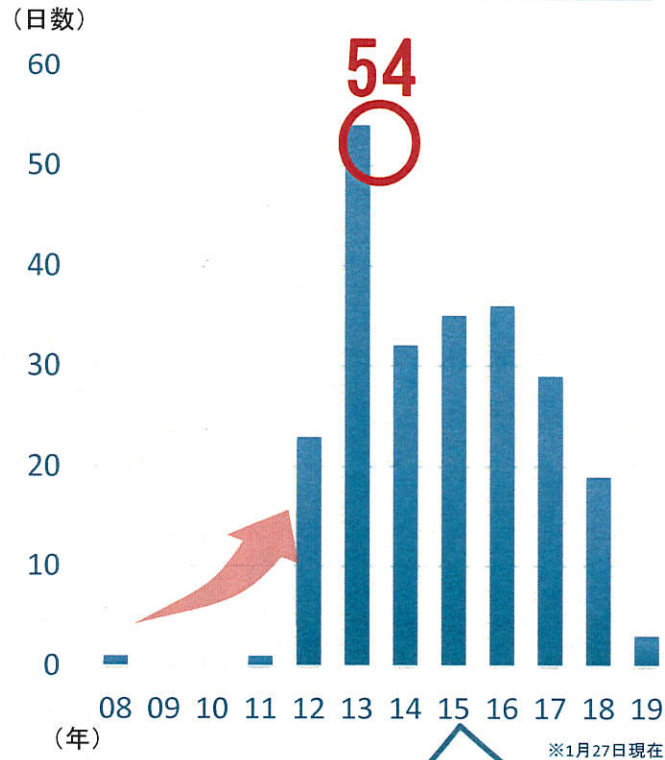
17年～、西太平洋への軍用機の飛行が急増（17年8月には爆撃機が紀伊半島沖まで進出）

H-6爆撃機



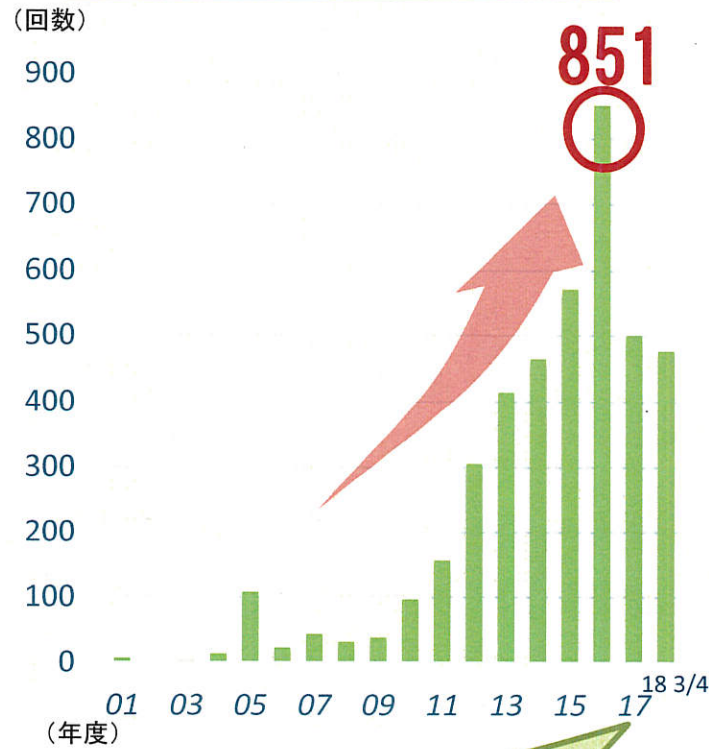
我が国周辺海空域での活動状況

尖閣周辺における
中国公船の領海侵入日数



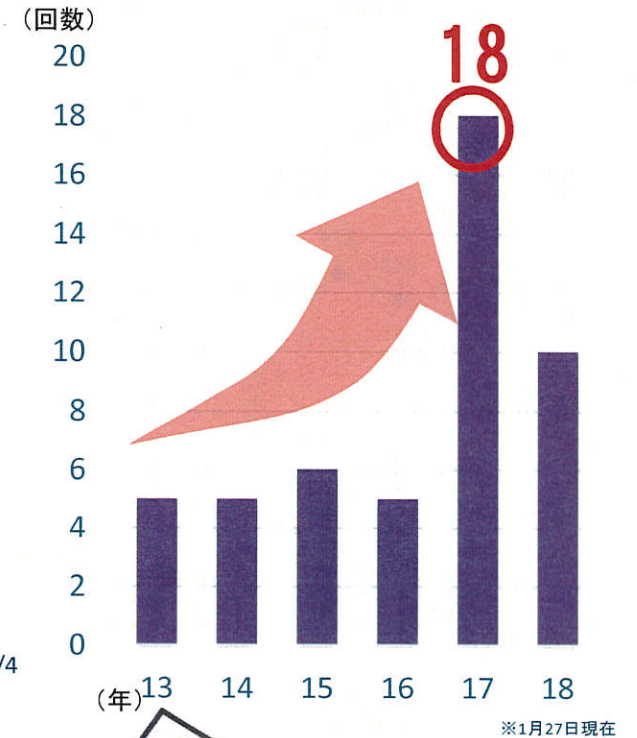
尖閣諸島周辺領海への
公船の定型的な侵入

中国機に対する
緊急発進回数



中国機への緊急発進
回数は引き続き高い水準
(16年度は過去最多)

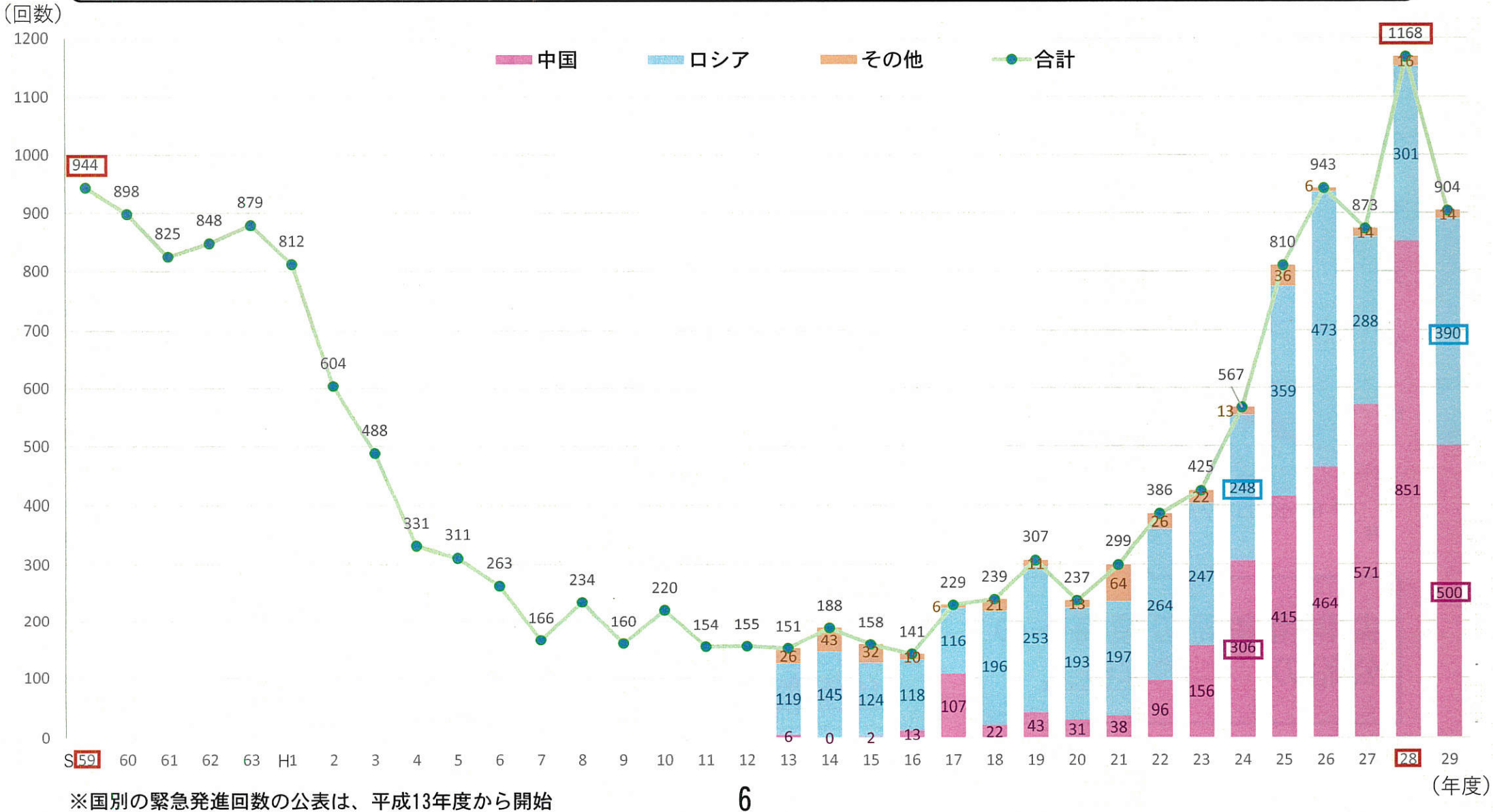
中国軍機の
沖縄本島・宮古島間の
通過公表回数



13年7月以降、同空
域を通過しての太平
洋進出が継続

年度緊急発進回数推移

- 昭和33年に対領空侵犯措置を開始。冷戦期のピーク（昭和59年度）（944回）を境に、緊急発進回数は減少していくものの、近年徐々に増加。平成28年度には過去最多（1,168回）となる。
- 中国機及びロシア機に対する緊急発進回数は、近年増加傾向にあり、5年前（24年度）と比較すると約1.6倍増加している。



緊急発進の対象となった中国機及びロシア機の飛行パターンの変化

- 中国機は、平成24年頃までは東シナ海での活動に限定されたものの、平成29年には、太平洋や日本海まで進出している状況。
平成28年以降、戦闘機を含む編隊飛行が確認されており、平成29年には紀伊半島沖までH-6爆撃機×6機が飛来したほか、Su-30戦闘機2機を含む5機の航空機が対馬海峡上空を通過して日本海に進出。
- ロシア機は、Tu-95長距離爆撃機などによる日本周回飛行など、依然として活発に活動が行われている。



→ : 中国機の経路

→ : ロシア機の経路

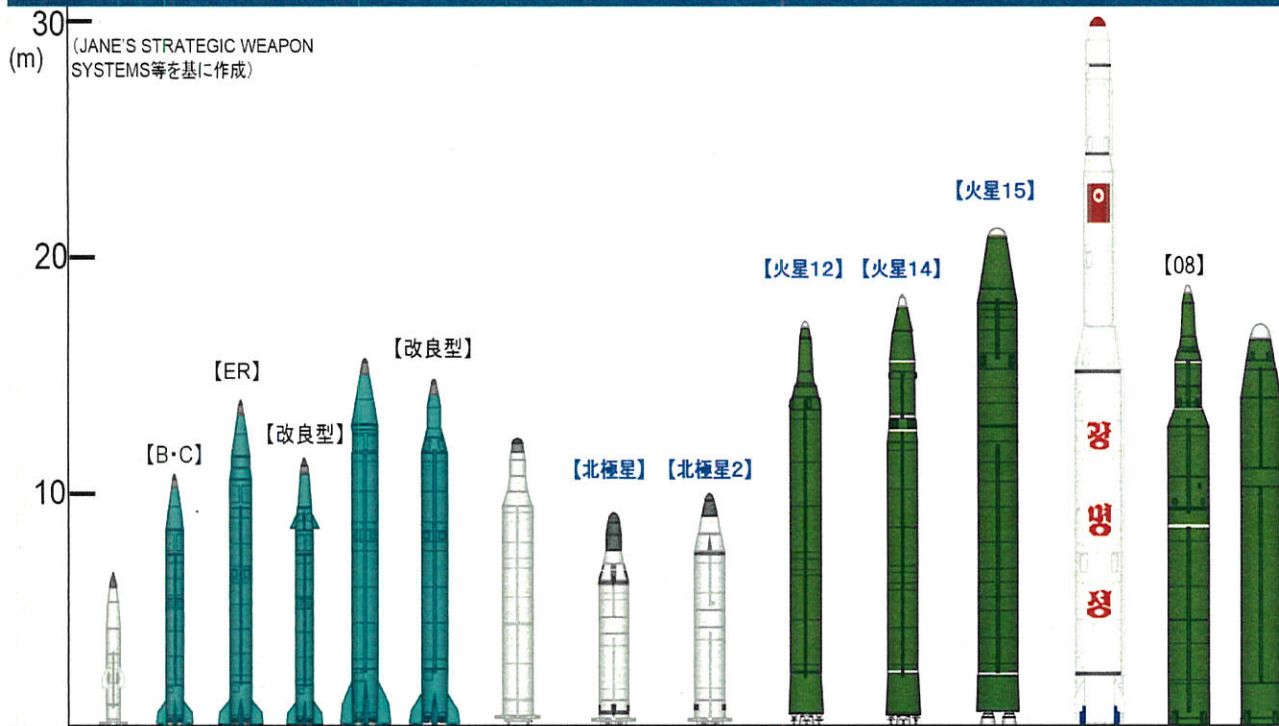
→ : 中国機の経路

→ : ロシア機の経路

北朝鮮の核・ミサイル開発の現状

- 北朝鮮は、移動式発射台(TEL)や潜水艦発射型弾道ミサイル(SLBM)を用いて我が国を奇襲的に攻撃する能力や、同時に多数の弾道ミサイルを発射することができる能力を保持。
- 先般の米朝首脳会談の成果の上に立って、今後とも、北朝鮮による全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの、完全な、検証可能な、かつ不可逆的な方法での破壊に向けて努力していくことが重要であり、北朝鮮に対して、国連安保理決議の完全な履行を求め、北朝鮮の具体的な行動を見極めていくことが必要。

北朝鮮が保有・開発する弾道ミサイル

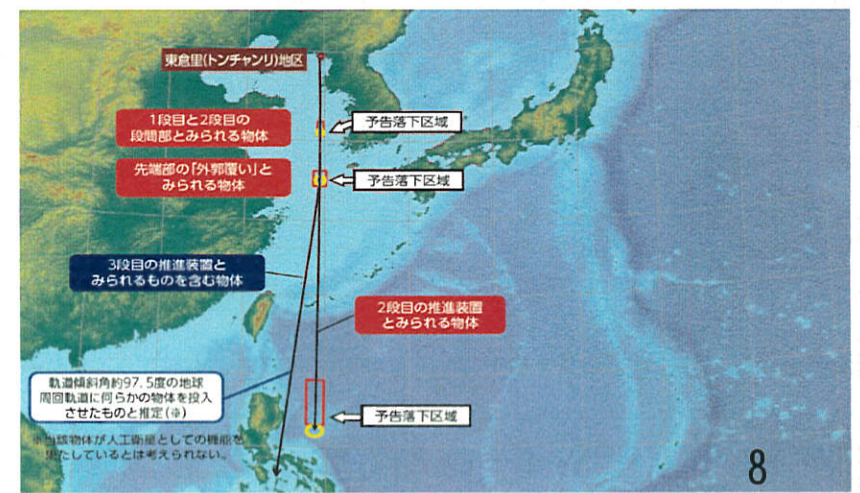


	トクサ	スカッドB・C・ER・改良型	ノドン改良型	ムスダン	SLBM	SLBMの地上発射改良型	IRBM級	ICBM級	ICBM級の新型	テポドン2派生型	KN-08/KN-14
射程	約120km	約300km/約500km/約1,000km/分析中	約1,300km/1,500km	約2,500~4,000km	1,000km以上	1,000km以上	約5,000km	5,500km以上	10,000km以上※	10,000km以上	5,500km以上 (ICBMとの指摘)
燃料	固体	液体	液体	液体	固体	固体	液体	液体	液体	液体	液体
運用	TEL	TEL	TEL	TEL	潜水艦	TEL	TEL	TEL	TEL	発射場	TEL

12年12月のミサイル発射の推定飛翔経路図



16年2月のミサイル発射の推定飛翔経路図



余 白

2. 石垣島への部隊配置について

南西地域の防衛態勢の充実

26年度以降に係る防衛計画の大綱（25防衛大綱）
（平成25年12月17日閣議決定）

Ⅳ 防衛力の在り方

3 各自衛隊の体制

（1）陸上自衛隊

ア 自衛隊配備の空白地域となっている島嶼部への部隊
配備、 により島嶼部における防衛態勢の充実・強化を図る。

中期防衛力整備計画（平成26年度～平成30年度）（26中期防）
（平成25年12月17日閣議決定）

Ⅱ 基幹部隊の見直し等

1 沿岸監視部隊や初動を担任する警備部隊の新編等により、南西
地域の島嶼部の部隊の態勢を強化する。 . . .

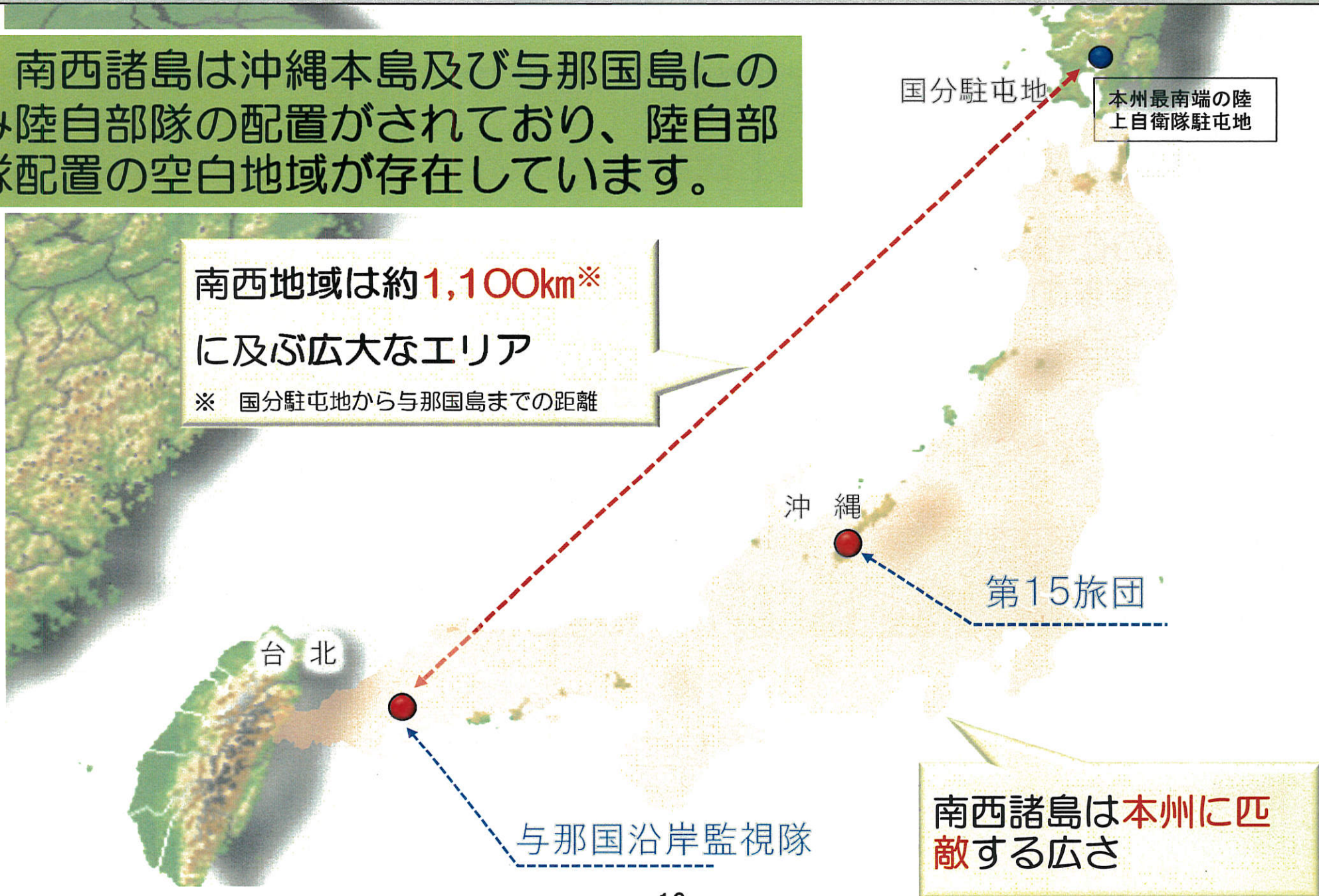
南西諸島防衛の現状

南西諸島は沖縄本島及び与那国島にのみ陸自部隊の配置がされており、陸自部隊配置の空白地域が存在しています。

南西地域は約**1,100km**※

に及ぶ広大なエリア

※ 国分駐屯地から与那国島までの距離



国分駐屯地

本州最南端の陸上自衛隊駐屯地

沖縄

第15旅団

台北

与那国沿岸監視隊

南西諸島は本州に匹敵する広さ

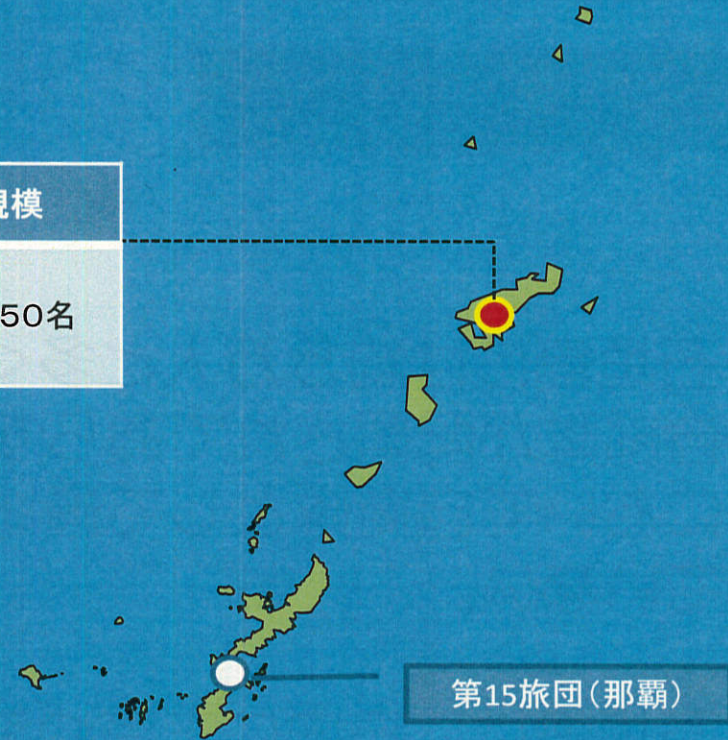
南西地域の防衛態勢の充実・強化

配置予定先	配置予定部隊	規模
奄美大島	警備部隊 地对艦誘導弾部隊 地对空誘導弾部隊	約550名

配置先	配置部隊	規模
与那国島	沿岸監視隊	約160名

配置予定先	配置予定部隊	規模
宮古島	警備部隊 地对艦誘導弾部隊 地对空誘導弾部隊	約700～800名

配置予定先	配置予定部隊	規模
石垣島	警備部隊 地对艦誘導弾部隊 地对空誘導弾部隊	約500～600名



第15旅団(那覇)

石垣島を陸自部隊の配置先として考える理由

石垣島の主な選定理由

- 石垣島には約5万人と多くの住民の方が暮らしているものの、陸自部隊が配置されておらず、島嶼防衛や大規模災害など各種事態において自衛隊として適切に対応できる体制が十分には整備されていない。
- 石垣島は、島内に空港や港湾等も整備されているとともに、先島諸島の中心に位置しており、各種事態への対処において迅速な初動対応が可能な地理的優位性があること。また災害対処における救援拠点として活用しうる。

余 白

3. 陸上自衛隊の警備部隊、地对艦誘導弾部隊、中距離地对空誘導弾部隊とは

石垣島に配置を予定する部隊及びその人員規模

部隊の人員規模は500名～600名

【警備部隊（普通科）】

災害を含む各種事態が生起した際に、迅速に初動対応を行う部隊



【地対艦誘導弾部隊】

島嶼部に対する侵攻を可能な限り洋上において阻止し得る部隊



【中距離地対空誘導弾部隊】

地対艦誘導弾部隊と連携し、作戦部隊及び重要地域の防空を有効に行い得る部隊



※ 地対艦誘導弾及び中距離地対空誘導弾は、あくまでも我が国を防衛するための純粋に防衛的な装備です。

各種誘導弾の運用について

国内の演習場では、地対艦誘導弾、地対空誘導弾の射撃訓練は行いません。射撃訓練は米国において実施されます。



陸上自衛隊の災害派遣の状況

石垣島において災害が発生した場合には、石垣島に配置される警備部隊等が迅速に初動対応にあたります。



伊豆大島災害派遣



中越沖地震災害派遣



東日本大震災災害派遣



与那国水難事故に伴う災害派遣

4. 地域への貢献等

国の取組み

◎ 防衛施設の設置により負担をお願いする地域の市町村に対しましては、防衛施設周辺対策事業の実施などの施策が国の取組みとして考えられます。

◎ 防衛施設周辺対策事業とは、防衛施設の設置及び運用等による障害の緩和等のため、各種助成事業を行うものです。

主な助成事業としましては、有線ラジオ、無線放送、消防施設、公園・緑地、道路、屋外運動場、農業・林業・漁業用施設(製氷施設、冷蔵施設等)、体育館、コミュニティ供用施設、水道、ごみ処理施設などがあります。



公園



体育館



道路

国の取組み（実例）



事 案 名：公園

補助事業者：沖縄県北谷町長

実施年度：平成18～23年度

事業費：約714百万円

補助額：約401百万円



事 案 名：コミュニティ供用施設

補助事業者：沖縄県うるま市長

実施年度：平成27年度

事業費：約138百万円

補助額：約101百万円



事 案 名：消防施設
(高規格救急自動車)

補助事業者：沖縄県久米島町長

実施年度：平成28年度

事業費：約38百万円

補助額：約16百万円

自衛隊施設設置による効果

- ◎ 自衛隊施設の設置による効果として考えられるものは以下のとおりです。
- ① 隊員の公租公課
 - ② 隊員及びその家族の消費
 - ③ 部隊の活動（部隊による資材等の購入）
 - ④ 建設工事（関連する施設整備、補助事業に伴う工事等）
 - ⑤ 部隊来訪者による消費
 - ⑥ 部外活力業務の導入（調理業務など）



自衛隊配置後は、各種助成事業や地域振興のお手伝いをさせていただきます。皆様の御理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

各種行事への支援

全国に配置されている部隊は地元自治体が主催する各種行事を支援しています。



夏祭り支援



冬祭り支援



マラソン支援

先島諸島における各種行事への支援など

与那国島マラソンに対する支援

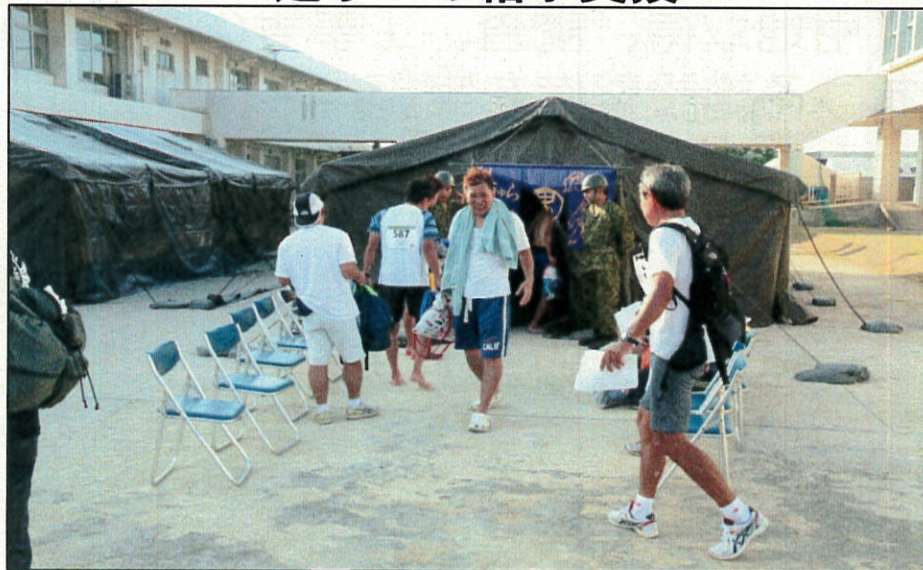


選手への給水支援

宮古島トライアスロンに対する支援



緊急時の医療支援



レース後の入浴支援

石垣島での巡回演奏



(参考) 南西地域の他の陸自駐屯地整備の状況

- 与那国駐屯地（平成28年3月開設）
 - ・ 約160人規模の沿岸監視部隊等を配置
 - ・ 平成23年度～平成30年度の施設整備関連予算：約380億円
(用地取得、調査、工事等の合計額)
 - ・ 今後、グラウンド整備を実施予定
- 宮古島への陸上自衛隊警備部隊等の配置
 - ・ 約700～800人規模の警備部隊、地对艦誘導弾部隊、地对空誘導弾部隊等を配置
 - ・ 平成28年度～平成30年度の施設整備関連予算：約680億円
(用地取得、調査、工事等の合計額)
 - ・ 現在、千代田カントリークラブ地区における施設整備を実施中
- 奄美大島への陸上自衛隊警備部隊等の配置
 - ・ 約550人規模の警備部隊、地对艦誘導弾部隊、地对空誘導弾部隊等を配置
 - ・ 平成27年度～平成30年度の施設整備関連予算：約670億円
(用地取得、調査、工事等の合計額)
 - ・ 現在、奄美地区及び瀬戸内地区における施設整備を実施中